

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝ドル円はレンジ相場か

[12月1日からの1週間の展望]

週間高低（カッコ内は日）	11月24日～11月28日
始 値	高 値
ドル・円 156.58	157.19(24)
ユーロ・ドル 1.1515	1.1613(27)
安 値	終 値
155.65(26)	156.39
1.1502(24)	1.1585
前週比	-0.02
+0.0072	
=====	
国内株・金利／米国株・金利	
終 値	前週末比
日経平均株価 50,253.91	+1628.03
ダウ平均株価 47,427.12	+1674.86
日本10年債利回り 1.810	+0.032
米10年債利回り 3.994	-0.069
=====	
<来週の主要経済統計等>	
1日 日銀植田総裁講演	
中国レイティングドッグ製造業購買担	
日銀植田総裁記者会見	
スイス10月小売売上高	
独11月製造業PMI確報値	
ユーロ圏11月製造業PMI確報値	
英11月製造業PMI確報値	
米11月製造業PMI確報値	
米11月ISM製造業景況指数	
2日 豪第3四半期経常収支、豪10月住宅建設許可件数	
ユーロ圏10月雇用統計、ユーロ圏11月消費者物価指数速報値	
3日 豪第3四半期GDP	
スイス11月消費者物価指数	
独11月サービス業PMI確報値	
ユーロ圏11月サービス業PMI確報値	
英11月サービス業PMI確報値	
ユーロ圏10月生産者物価指数	
米11月ADP雇用統計	
米9月輸入価格指数	
米9月鉱工業生産・設備稼働率	
米11月サービス業PMI確報値	
米11月ISM非製造業景況指数	
4日 豪10月貿易収支	
スイス11月雇用統計	
ユーロ圏10月小売売上高	
米10月貿易収支、米新規失業保険申請件数	
カナダ10月貿易収支、カナダ11月IVvey購買部協会指数	
5日 日本10月労働者世帯家計調査	
日本10月景気動向指數速報値	
独10月製造業受注指數	
ユーロ圏第3四半期GDP確報値	
カナダ11月雇用統計	
米12月ミシガン大学消費者信頼感指數速報値	
米9月個人所得・個人支出、米9月個人消費支出（PCE）価格指數	
※米政府機関再開に伴い米経済指標の発表日が変更・追加される可能性がある。---	

【前回のレビュー】米経済指標の結果などによって、ドルは上下に振幅するとみられ

る。そうした中でも緩やかなドル買い円売りの地合いが続くとみられ、ドル円は強含みで推移しそうだ。ただ、160円が視野に入ってきており、日本の当局によるドル売り円買い介入への警戒感から、上昇ペースは鈍化するとした。

【ドル円は米利下げ観測の高まりから上値の重い展開】

11月20日に157.80台まで上昇したドル円は、その後はもみ合いながらも軟調な推移を見せた。その後の11月24日の週のドル円はおおむね155円台後半から157円台前半のレンジで推移した。

ドル円が上値重く推移した背景には、12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利下げ期待の高まりがある。11月19日（日本時間20日午前4時）に発表された10月28～29日開催の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨では、多くの当局者が年内の政策金利は据え置きとなる可能性が高いとの認識を示した。これにより12月の利下げ期待が後退してドル買い円売りとなり、157.80台まで上昇した。ただ、この水準が当面のピークとなった。

21日にはニューヨーク連銀のウリアムズ総裁が、インフレリスクが和らいでいる一方で雇用の下振れリスクに言及し、「近いうちに再び利下げの余地がある」と述べた。米連邦準備制度理事会（FRB）のウォーラー理事は24日に「労働市場を懸念しており、次の会合では利下げを支持する」との見解を示した。CME FEDウォッチでは、12月の利下げ確率は85%前後まで高まっている。

国内では政権への忖度から日銀が12月の金融政策決定会合で利上げを見送る可能性が高いとみられる。ただ、円安が進んだ場面では片山財務相による円安けん制発言などもあり、日本の当局によるドル売り円買い介入への警戒感がドル円の上値を抑える要因となっている。

【米経済指標に左右されやすい展開か】

12月1日の週は米経済指標の動向に左右されやすい展開とみられる。日米の経済指標やイベントとしては、1日に米11月製造業PMI確報値、米11月ISM製造業景況指数、3日に米11月ADP雇用統計、米9月輸入価格指数、米9月鉱工業生産・設備稼働率、米11月サービス業PMI確報値、米11月ISM非製造業景況指数、4日に米10月貿易収支、米新規失業保険申請件数、5日に日本10月勤労者世帯家計調査、日本10月景気動向指数速報値、米12月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値、米9月個人所得・個人支出、米9月個人消費支出（PCЕ）価格指數などがある。

主な指標の事前予想は次の通り。1日の米11月ISM製造業景況指数の予想は49.0で、前回の48.7から改善の見通し。3日の米11月ADP雇用統計の予想は前月比+2.0万人で、前回の+4.2万人から減少する見通し。米11月ISM非製造業景況指数の予想は52.0で、前回の52.4を下回る見通し。米9月個人消費支出（PCЕ）価格指數の予想は前年比+2.8%で、コア前年比も+2.8となっており、おおむね前回（8月分）と同水準の見込み。

12月1日には日銀の植田総裁の講演と記者会見がある。12月の日銀会合での利上げを示唆するような内容となれば円買いに傾きそうだが、その可能性は低いとみられる。

米経済指標の動向に左右されやすい中、利下げ期待の高まりもあってドル円はやや上値を抑えられやすい展開が続きそうだ。ただ、日本の財政支出拡大への警戒感や日銀が利上げを先送りするとの観測から、円売り圧力は根強いとみられる。なお、160円を視野に円安が進行すると介入警戒感が上値を抑える要因になるとみられる。こうした中、ドル円はレンジ相場が続くとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、153.0～160.00円。

※米政府機関再開に伴い米経済指標の発表日が変更・追加される可能性がある。

【ユーロドルは堅調な推移が継続か】

11月27日に公表された欧州中央銀行（ECB）議事録（10月3日分）によると、「理事会のインフレ見通し評価はおおむね変更なし」「見通しは依然として不透明

ながら、こうした不確実性は政策金利据え置きを正当化する可能性がある」「利下げサイクルは終了したとの見解が示された」といった点が明らかになった。

ユーロドルは1.15ドル割れまで下落した反動もあり、戻り歩調で推移している。5日移動平均線にサポートされながら、21日移動平均線を上抜いており、堅調な推移が続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1450～1.1750ドル。

ポンドドルも売り一巡感から上昇に転じている。英国のリーブス財務相が26日に公表した秋季予算案は富裕層への増税などを通じて、261億ポンド（約5兆4000億円）の歳入増加を目指す。将来の財政余力が増える見通しとなったことで、英金利が低下するとともにポンド買いにつながった。ポンドドルもユーロドルと同様に売り一巡感からポンド買いドル売りに傾きやすく堅調な推移が見込まれる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.3050～1.3450ドル。

今後の日米以外の経済指標は、1日に中国レイティングドッグ製造業PMI、独11月製造業PMI確報値、ユーロ圏11月製造業PMI確報値、英11月製造業PMI確報値、2日に豪第3四半期経常収支、豪10月住宅建設許可件数、ユーロ圏10月雇用統計、ユーロ圏11月消費者物価指数速報値、3日に豪第3四半期GDP、独11月サービス業PMI確報値、ユーロ圏11月サービス業PMI確報値、英11月サービス業PMI確報値、ユーロ圏10月生産者物価指数、米11月ADP雇用統計、4日に豪10月貿易収支、ユーロ圏10月小売売上高、5日に独10月製造業受注指数、ユーロ圏第3四半期GDP確報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。